

【理念】

主に難治・慢性疾患の子どもを対象とした医療・保健・療育・福祉サービスの県の中核機関として、安心・信頼・満足の得られる医療・ケアの包括的なサービス提供を行います。

【基本方針】

●高度な専門知識と技術の向上に努め、良質で安全な科学的根拠に基づいた医療を、十分な説明と納得の上で提供します。

●地域の医療、保健、療育、福祉、教育機関との機能分担・連携を図ります。

●小児の医療、保健、療育、福祉にたずさわる専門家の育成、学生教育への協力および臨床研究を通じて、県下の小児保健医療の発展と向上に貢献します。

●県立病院の使命としての政策医療を推進します。

診療科等のご案内

◆ 診療科目

小児科（総合内科・神経内科・アレルギー科）
こころの診療科（精神科）、整形外科、小児外科、眼科
耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科

◆ その他の外来

予防接種、肥満、発達障害、ダウン症
臨床遺伝カウンセリング

- 内科系：頭痛、心臓内科、腎臓内科、内分泌・代謝科、血液・リウマチ科
- 外科系：泌尿器科、脳神経外科、形成外科

◆ 病床数 100床

ご利用案内

◆ 外来診療

- 小児科（総合内科）を除き、原則として予約制です。
- 診療時間 午前 9時00分～午後 5時00分
- 予約受付時間 午前 8時30分～午後 5時00分
- 休診日 土・日・祝日・年末年始

◆ 初診時の注意点

- 0～18才未満の方を対象としています。

◆ 初診時に持参いただくもの

- 保険証（国保・協会健保・共済等）：受診時毎月提示してください。
- 母子健康手帳（乳幼児の場合・こころの診療科受診の場合）
- 医療券（公費負担をご利用の場合）

★予約直通電話：077-582-8425★

小児科（総合内科）は予約なしで受診していただけます。
診療受付は午前11時30分（月～金）までです。

地域医療連携室ご利用案内

- 受付時間 月曜日～金曜日
午前9時00分～午後4時30分
（土、日、祝日、年末年始は除く）
- 直通電話 077-582-6222
- FAX番号 077-582-6276



滋賀県立小児保健医療センター（編集発行）

〒524-0022 滋賀県守山市守山五丁目7番30号
Tel：077-582-6200
Fax：077-582-6304
HP： <http://www.pref.shiga.lg.jp/mccs/index.html>



耳鼻いんこう科のご紹介～最近のトピックス～

中耳疾患に対する鼓室形成手術

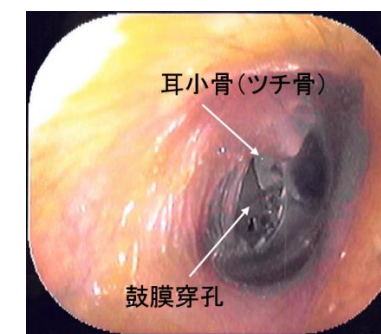
慢性中耳炎は、中耳炎を繰り返しているうちに鼓膜に穴が残り耳だれを繰り返すようになってしまう疾患です。

先天性真珠腫は、難聴や耳だれを繰り返して、進行する疾患です。はじめは気づきませんが、放置することにより中耳の組織が徐々に破壊され、難聴や耳だれ、めまいなどの症状も起こってしまいます。

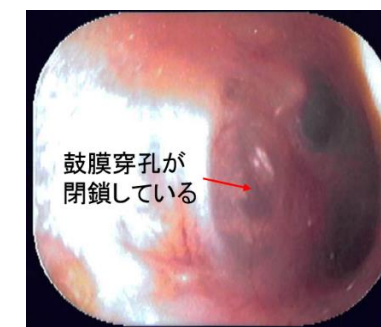
耳小骨奇形は、生まれながらに音を伝えるための骨である耳小骨に奇形があり、難聴が起こってしまう疾患です。小児は自分から難聴の症状を訴えることがないため、健診や耳鼻科受診で発見されるケースがほとんどです。

これらの中耳疾患に対する根本的治療は手術以外にはなく、耳鼻いんこう科では積極的に手術を行ない、良好な成績を得ています。

＜鼓膜穿孔に対する鼓室形成術＞



術前



術後2ヵ月

嚥下外来を開設しました！

当院にはうまくお食事をとれない患者さんが多く通院されています。そこで2018年4月より、そのような患者さんの摂食・嚥下機能についての評価・訓練を行っています。月2回からのスタートでしたが、これまでに35名の患者さんの嚥下評価を行い、食事形態や姿勢、食事のスケジュールなどについて、専門の言語聴覚士より丁寧な指導を行ってきました。

また、必要に応じて療育施設と連絡を取り合うなど、患者さんの食生活をトータルにサポートできるように努めています。

2019年4月からはより充実した診療体制で行う予定です。



第1回人工内耳研修会を開催しました！

当科は開院当初から小児難聴の早期発見と治療を行っており、現在94名の人工内耳を装着している患者さんが通院されています。滋賀全域に患者さんが分布しており、年齢が1歳から20歳代後半と幅広いことから、着用者同士の交流や情報共有を、より行いやすくすることが課題でした。

そこで、2018年11月11日(日)、当院研修室にて人工内耳研修会を開催しました。午前は講演会を行い(医師、人工内耳着用者の保護者、滋賀県立聾話学校の先生による)、午後は人工内耳着用者の保護者のみなさまにテーマトークをしていただきました。着用者本人、保護者、関係者あわせて93名の参加で、たくさん交流を行っていただくことができました。今後も継続してこのような研修会を開催していく予定です。



講演会の様子



子供達は“クリスマスツリー”を製作しました！

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト

Hospital Play Specialist という職種をご存じですか？

頭文字を取って HPS(エイチピーエス)と呼ばれています。HPSは、遊びを使って医療環境における子どもたちを支援する専門職です。

病院という環境は、家に帰れない・きょうだいに会えない・学校に行けない・食べたい物が食べられない・遊べない、など特別な環境となります。さらに病院では、治療や処置が優先される事が多く、子どもの『遊びたい』という気持ちに気付いてもらえない、遊びたい環境が整っていないと感じられた事もあるのではないのでしょうか？



しかし、子どもは遊びを通して挑戦し、満足感を得る事で『出来た！』という達成感を体験します。そして、病院における遊びには、回復時間を早める・コミュニケーションを促す・治療に対する準備ができる・平常な状態を作り出す・不安感を減少する、といった効果があります。その為、子どもにとって遊びはとても重要なものなのです。

『病院へ行く』という出来事は、子どもにとって大きなイベントであり、さらに治療や処置の経験は、不安感や恐怖心が増強する事が予測されます。私は、子どもたちが抱く可能性の高



い不安感や恐怖心を、『遊び』を通して、少しでも軽減出来るように、主に外来・手術室で活動をしています。

その中でも大切にしている事は、子どもとのコミュニケーションを丁寧に行い、『子どもに状況をコントロールする力を与える』という事です。

その中でも大切にしている事は、子どもとのコミュニケーションを丁寧に行い、『子どもに状況をコントロールする力を与える』という事です。

例えば、採血は痛みを伴う処置です。診断の為には採血が必要ですが、まずは必要性を子どもが理解出来る言葉や方法で伝える必要があります。そして採血をどのように実施するかを子どもと一緒に考えます。体位や採血中の過ごし方(遊び)の、決定権を子どもに与える事でコントロール感を持つ事が出来ます。また、終了後は達成した事に焦点を当て、『頑張ってくれてありがとう。』と伝える事で、子どもを中心とした採血を目指しています。

手術室では、前日に病室を訪問し、手術室へ向かう為の術衣の選択や、入室から麻酔導入時の過ごし方を子どもに選択してもらい、一人ひとりに合った支援を行っています。



これからも、子どもたちにとって、病院へ行く・治療を受けるという出来事が非日常的な環境である事を忘れずに、子どもたちの想いを聴きながら、遊びを通して『子どもにやさしい医療』を目指し、活動を続けていきます。

その中でも大切にしている事は、子どもとのコミュニケーションを丁寧に行い、『子どもに状況をコントロールする力を与える』という事です。



(看護師・HPS 阿部 友香)

※掲載写真につきましては、全てご本人およびご家族の許可を得ております。